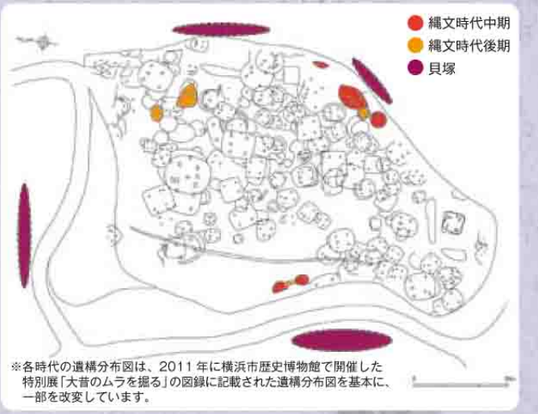
横浜の原始・古代

時代	年代（約）	市内のできごと	市内の代表的な遺跡
旧石器	130,000 年前	○下末吉台地が陸化 関東ローム層形成	
	30,000 年前	○市内に人が姿を現す	北川貝塚東地点（都筑区）
	20,000 年前	○最後の氷期 礫群や石器製作跡などが残される	四枚畑遺跡（都筑区）
縄文	15,000 年～ 12,000 年前	○土器づくりがはじまる 弓矢や有舌尖頭器の使用	花見山遺跡（都筑区） 大丸遺跡（南区）
	9,000 年前	○竪穴住居のムラが営まれる 貝塚が形成される	山田大塚遺跡（都筑区） 野島貝塚（金沢区）
	6,000 年前	○縄文海進のピーク 多数の貝塚集落形成	南堀貝塚（都筑区） 平台貝塚（中区）
	4,500 年前	○大規模な環状集落が営まれる たくさんのムラができる	大熊仲町遺跡（都筑区） **三殿台遺跡**
	3,500 年前	○狩りや漁が活発に行われる	称名寺貝塚（金沢区） **三殿台遺跡**
	2,500 年前	○定型的集落の減少 ムラがほとんどなくなる	杉田遺跡（磯子区）
弥生		○弥生土器が現れる	霧ヶ丘遺跡（緑区）
	2,200 年～ 2,000 年前	○環濠集落出現 大岡川流域にも弥生ムラ	大塚・歳勝土遺跡（都筑区） 成美学園遺跡（南区） **三殿台遺跡**
	1,800 年前	○環濠集落滅少 小規模なムラ	殿屋敷遺跡（港南区） **三殿台遺跡**
古墳	1,700 年前	○古墳の築造開始	観音松古墳（港北区）
	1,500 年前	○住居にカマドが作られる	矢崎山遺跡（都筑区） **三殿台遺跡**
		○埴輪を伴う古墳が出現	室の木古墳（磯子区） 軽井沢古墳（西区）
		○横穴墓が各地で作られる	七石山横穴墓群（栄区）
奈良	1,300 年前	○武蔵国・相模国、 都筑郡・久良岐郡成立	長者原遺跡（青葉区）
		○都筑郡の服部於田（はとりべのうえだ） 防人歌をよむ（万葉集）	
		○掘立柱建物と竪穴住居のムラができる	北川表の上遺跡（都筑区） 弘明寺遺跡（南区）
平安	1,200 年前	○溝で区画された館が作られる	神隠丸山遺跡（都筑区）
		○小規模な寺が造られ火葬墓が盛行する	藪根不動原遺跡（都筑区）
		○立野牧・石川牧が朝廷の牧となる	

発掘調査の様子

現地説明会の様子

縄文時代



※各時代の遺構分布図は、2011 年に横浜市歴史博物館で開催した特別展「大昔のムラを掘る」の図録に記載された遺構分布図を基本に、一部を改変しています。

三殿台に初めて人が訪れたのは今から約 4,500 年前の縄文時代中期のことです。人々は、身の回りにある自然の中で狩猟・採集・漁撈の生活をしていました。

その後、約 3,500 年前の縄文時代後期にもムラが営まれました。

縄文時代のムラの規模はあまり大きくなかったようですが、丘の斜面には貝塚が点在し、貝殻や獣・魚骨など、当時の生活を知る資料が多く発見されています。

縄文時代の復元住居のモデルになった 10-B 号住居跡。平面形は五角形です。中央近くに石で囲った炉を伴っています。

骨角器▶

装飾品

貝刃

縄文土器

弥生時代

※ここでは時期がはっきりわかる遺構のみ着色しています。

今から約 2,000 年前の弥生時代中期に、稲作や金属器など新しい生活様式を持った人たちが三殿台の丘にやってきました。そして、弥生時代の中・後期の間に多くの竪穴住居を作りました。

同時期にあった軒数は 20 軒程度と考えられますが、その規模は当時としては大きく、大岡川流域の中心的なムラでした。

調査によって壺や甕、石器、炭化米や青銅製の装飾品など、さまざまな生活用品が見つかりました。

弥生時代の住居の平面形は、楕円形から方形へ移り変わります。その変化は擬木（ぎぼく）の並び方で確認することができます。復元住居のモデルは、写真の左側 128-D 号住居跡です。

青銅製品

石製品

弥生土器

古墳時代

※ここでは時期がはっきりわかる遺構のみ着色しています。

古墳時代のムラは、弥生時代の終わりから古墳時代の初期と古墳時代の後期を中心に営まれました。

約 1,400 年前の後期のムラでは、窯で焼いた須恵器（すえき）や鉄製品などが出土しました。この時期の竪穴住居の形は四角く、住居の奥の壁側には粘土で作ったカマドが築かれました。カマドでは、底の無い甑（こしき）と甕とを組み合わせて使用し、米などを蒸しました。食生活の大きな変化を知ることができます。

古墳時代の復元住居は 111 号住居跡をモデルにしています。四角い平面形をし、4 本の主柱で屋根を支えています。

須恵器

金環

紡錘車

土師器